

語学学校最終日、研修6日目を迎えました。今はもう通いなれた登校路。学校のスタッフやクラスメイトの留学生との会話も、初日からは考えられないほど行えるようになりました。「もっとここで英語を勉強したい！」という声はあちこちから聞こえてきます。生徒の皆さんは登校すると、すぐに交流を開始しました。ただお喋りするだけでなく、日本に戻ってから連絡が取りあえるように連絡先もしっかり交換します。

午前の授業が終わった後、終了書授与式が行われました。「授与式」といえど、そのスタイルは日本式とは異なります。Youtubeから流れる音楽を聞きながら、ソーダを片手にクッキーを頬張る。こんな風景から授与式はスタートしました。ディレクターのGwenから一人ずつ修了書が手渡されます。「英語が上達する一番のコツは、使い続けること。学ぶことをやめないで、少しずつでも毎日続けてください。」とエールを頂きました。

午後は、日本人研究者からのレクチャーです。お越し頂いたのは、ハーバード大学院で公衆衛生の博士研究員として活躍されている木野氏です。木野氏は、愛知淑徳中学校・高等学校を卒業された後、東京医科歯科大学に進学され、主席で卒業されました。卒業後は順天堂大学健康学科で修士号を取得、その後イギリスのサンプトン大学、ロンドン大学のキングスカレッジで学ばれ、二つ目の修士号を取られました。2017年に渡米し、現在はハーバード大学院で日々研究をされています。大学進学のかげや留学を決めるに至った経緯などをお伺いするうちに、非常に芯のしっかりとしたパワフルな方であることが分かりました。「公衆衛生」とはどのような学問なのか、社会経済的な格差により健康や行動に格差が生まれる仕組み、そしてそれを改善していく方法など。普段あまり考えたことのないようなトピックでしたが、分かりやすい言葉と具体例を使って教えてくださいました。留学をしてイギリスの大学に6年も在籍されたのだから、語学も堪能なのだろうと考えておりましたが、日本で勉強をしている時はほとんど会話が出来なかったようです。大学の授業中に、ディスカッションの内容が分からず泣いてしまったこともあるとお話ししてくださいました。ボストンでの生活で、皆英会話の難しさを実感しています。目の前にいる素晴らしい経歴の方でも、最初から堪能に話せたわけではない。そんな一言が、生徒さんに勇気を与えたことと思います。レクチャーの最後に、木野氏からメッセージを頂きました。

- ・小さなきづきを大切に
- ・チャンスを見逃さないで
- ・目標を決めたらひたすら努力
- ・諦める前に広い視野で可能性を探す
- ・人生を楽しむ

レクチャー終了後、質問は途切れることはありませんでした。今の研究内容から、高校時代の学習方法、部活と勉強の両立など。木野氏からの答えは、日本に戻ってから取り組める内容のこと、参考にしたいことが多くありました。アメリカに来て、自分に足りないものが分かり、これから何をしていけば良いのか模索している生徒さんにとって、素晴らしい指針となったことでしょう。

レクチャー終了後、有志のメンバーが集まってミーティングを行いました。うまくいなくて悩んでいること、辛いことを打ち明け合い、残りの研修中にどう解決していくか考えました。2年生が音頭を取ってまとめてくれましたが、ミーティングでは学年の枠を超えて話し合いました。研修はまだ終わっていません。まだまだ挽回のチャンスはあります。ここで話し合ったことを噛みしめ、一人ひとりが決意を新たにファミリー宅へ帰宅していきましました。以上、6日目の報告とさせていただきます。

クラスの様子（先生がお休みになったクラスがある為、本日は4クラスでレッスンを行いました）



Gwen から修了書を受け取ります。



木野先生のレクチャー



レクチャー後の質問

